

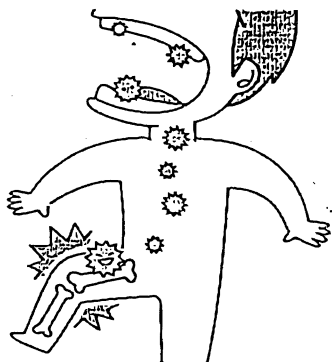
医療福祉NOW

▼お口の細菌感染症について

橋本 圭

お口の中には常在菌と呼ばれる細菌が存在しています。毎日しっかりと歯磨きし、きれいに見えるお口の中でも1千億個以上の細菌が存在します。通常これらの細菌は害を及ぼすことはありませんが、一定の条件がそろったと感染症としてお口を悩ませる不快症状をひき起こします。

主な感染症として、**う蝕症**（虫歯）と**歯周病**（歯槽膿漏）があります。う蝕症はミュータンスレンサ球菌



が菌に感染し、砂糖から作り出した酸が歯を溶かします。生まれたての赤ちゃんの口の中にミュータンス菌は存在せず、乳歯が生えそろうと2歳くらいまでに感染しなければ、虫歯のリスクは大幅に軽減できます。2歳くらいまでは家族と食器を共用しない、口移しでものを食べさせないなどの配慮が重要となります。

う蝕は初期のうちに治療すれば完治が可能です。放置すれば歯を抜くことになるだけでなく、骨にまで感染が及べば最悪の場合、骨髄炎など治療の難しい疾患となることがあります。

歯周病は歯垢に含まれる原因菌により引き起こされる疾患です。歯周病の原因菌の出す毒素等の作用により、歯を支える骨（歯槽骨）が溶かされ、歯が動揺したり歯茎が腫れたりする病気を発症します。う蝕症と同様に、初期のうちにブラッシング等で進行を防ぐことが可能ですが、病気が進行すれば不可逆的な状態になります。

細菌感染症において、がんや骨粗しょう症で薬剤で治療中の人、糖尿病の人、ステロイド治療を受けている人などは特に注意が必要です。歯医者に怖いイメージをお持ちの方もいると思いますが、軽症のうちに治療を受ければそれほど怖い思いをすることもありません。何ともないと思っている方も早めに歯科で検診を受けることをお勧めします。

（函館協会病院 歯科口腔外科 科長）